

# 「業績DB・IR連携プロジェクト」の 概要と今後の課題

主担当：金沢大学／連携機関：早稲田大学，九州大学

国立情報学研究所平成19年度CSI委託事業報告交流会（2008年6月13

金沢大学情報部情報企画課  
情報企画係長 橋 洋平

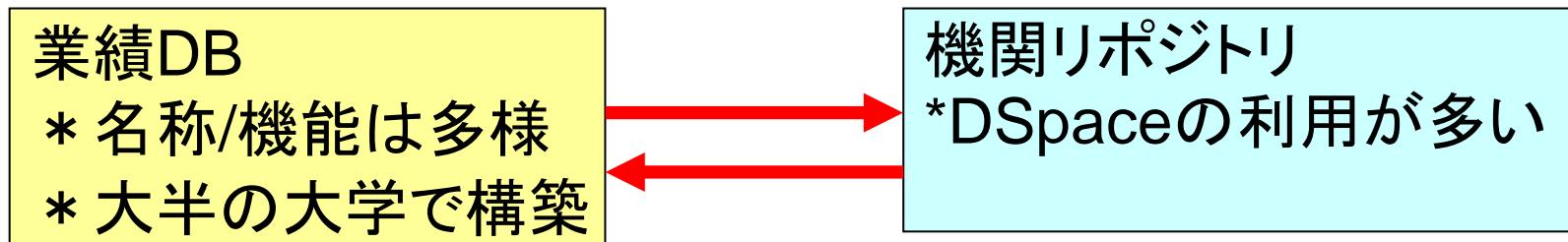
# 発表の内容

1. 「業績DB・IR連携プロジェクトのねらい
2. プログラム開発の概要
3. プログラムの利用方法・画面例
4. 現状
5. 課題と展望

# 1. 連携プロジェクトのねらい

【目的】機関リポジトリの視認性の向上

【機能】業績DBと機関リポジトリとの連携機能



学内の教育・研究成果を扱う＝データが共通



データのやりとりの仕組みを考えるべき

ねらい データ連携に使えるDSpace用ソフトの開発

※業績DBの改修は個別

## 2. プログラム開発の概要(1)

### 2つのタイプに分けて開発

#### 【1】業績DB→IR型

(金大, 早大)

- \* データ入力とファイル送付の入口の一本化
- \* 業績DBからIRへ

#### 【2】業績DB⇔IR型

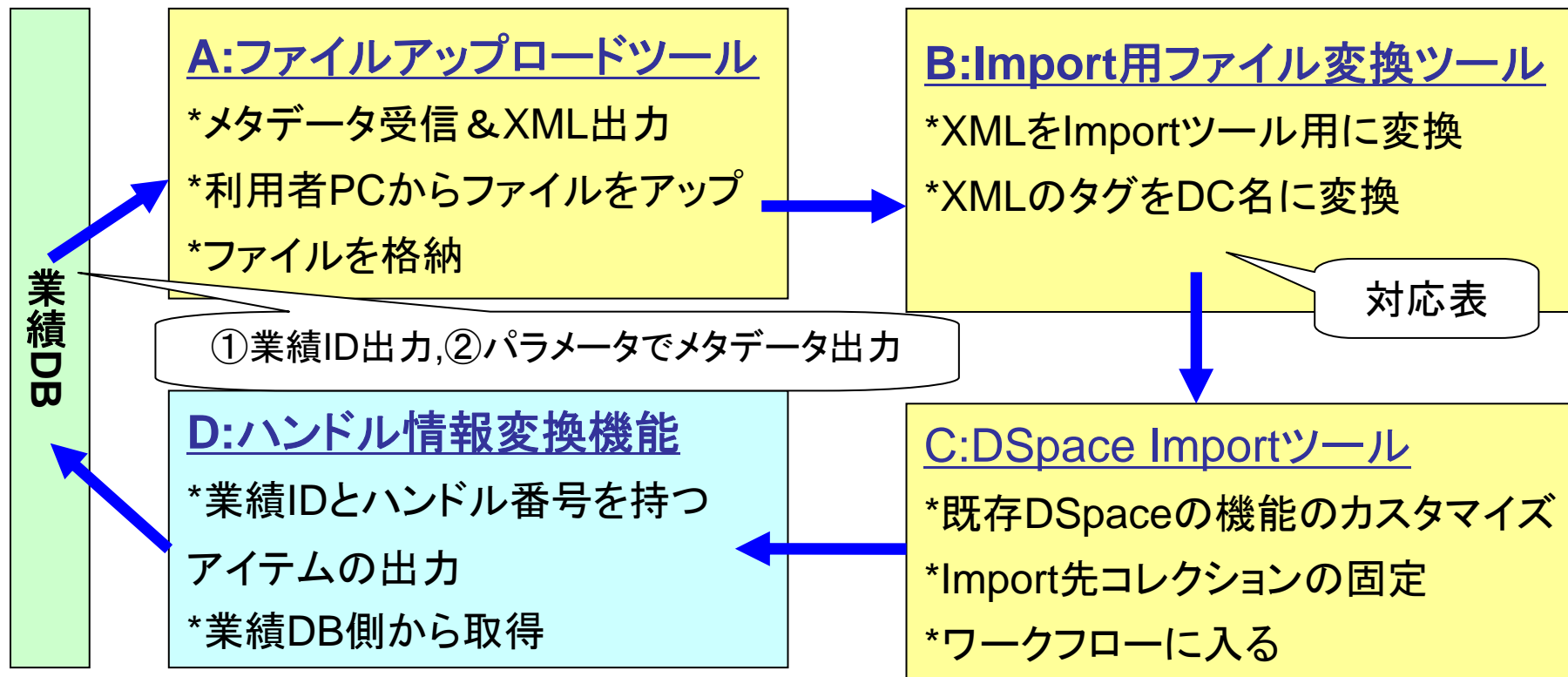
(九大)

- \* 中間システムを利用した両DB間のリンク構築
- \* IRデータの入力支援

※コンセプトがかなり違う。以下, 【1】のみ紹介

## 2. プログラム開発の概要(2)

以下のモジュールに分けて開発(■ H18 ■ H19)



プログラムの実装については→<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/kura/achievement/>

# 3. プログラムの利用方法・画面例(1)

**金沢大学**  
Kanazawa University origin 1882

学術情報

操作説明

教員情報

研究者基本情報

研究情報

科学研究費補助金

競争的研究資金・外

教育実績

その他実績

その他

**学術情報レポジリへ送信**

他の研究者情報の更新

管理者メニューに戻る

教員総覧画面を開く

送信ボタンを押すと別ウィンドウが開く。

個人番号 所属 氏名  
00152629 法学部 鹿島 正裕

KURAへ送信

全文を送りたい論文を選択

金沢大学学術情報レポジリへ登録を行う場合、【KURAへ送信】ボタンをクリックし、論文ファイルを登録する「ファイルアップロード画面」が立ち上がります。

業績システムデータ

業績ID	001526290008
標題	社会主義から民主主義へ：市
氏名(カナ)	カシマ マサヒロ
氏名(漢字)	鹿島 正裕
氏名(ローマ字)	KASHIMA Masahiro
科研費研究者番号	00152629
所属部局(和)	法学部
標題(別名)	社会主義から民主主義へ：市
出版名(和)	
出版名(英)	
掲載誌名(和)【論文】	金沢法学
掲載誌名(英)【論文】	
掲載誌名(その他)【論文】	
巻号頁	45/1,193
出版年月	2002
掲載誌種別【論文】	学術研究所等紀要
共著者氏名(和)	
共著者氏名(英)	
ISBN	
ISNN	0451-324X

コンテンツファイル アップロード  
・アップロードするファイルを参照ボタンから指定してください

ファイル追加  
キャンセル 決定

PCのデスクトップ等の全文ファイルを指定し、「決定」を押す。

★附属図書館の作業

- 1) 附属図書館に翌朝届く
- 2) 各雑誌の著作権ポリシーを図書館で確認
- 3) 登録ファイルについては、差し替えを行う場合もあり

**KURA** 金沢大学学術情報レポジリ  
Kanazawa University Repository for Academic Resources

このアイテムを引用あるいはリンクする場合は次の識別子を使用してください  
http://hdl.handle.net/2297/6250

タイトル: 社会主義から民主主義へ：市場経済への移行：ハンガリーはなぜ成功したか  
著者: 鹿島 正裕  
KASHIMA, Masahiro  
カシマ, マサヒロ  
発行日: 2002-11月(Nov)  
出版社(者): 金沢大学法学部  
ISSN: 0451-324X  
金沢法学  
巻: 45  
号: 1  
開始ページ: 193  
終了ページ: 224  
URI: http://hdl.handle.net/2297/6250  
資料種別: Departmental Bulletin Paper  
出現コレクション: 業績IDから送信  
金沢法学

このアイテムのファイル:

ファイル	内容記述	サイズ	フォーマット
kashima200211.pdf		2794Kb	Adobe PDF

アイテムの詳細コードを表示する

**KURAに登録**

決定 記述 アップロード 確認

Enter the names of the authors of this item below, enter a group author into a family name.

著者(Authors)  
鹿島 正裕  
この項目を抹消  
ファイルを追加

アイテムのタイトルを入力してください  
Enter the main title of the item.

タイトル(Title)  
社会主義から民主主義へ：市場経済への移行：ハンガリーはなぜ成功したか  
この項目を抹消  
ファイルを追加

アイテムに付与されたシリーズ番号を登録してください  
Enter the series and number assigned to this item by your community.  
シリーズ名 レポート番号あるいは報告書番号

シリーズ/報告書番号  
(Series/Report No.)  
この項目を抹消  
ファイルを追加


アイテムに付与された識別子が付与されている場合は入力してください  
If the item has any identification numbers or codes associated with it, please enter the types and the actual numbers or codes below.

識別子(Identifiers)

ISSN	0451-324X	この項目を抹消
ISSN	001526290008	この項目を抹消
ISSN	00152629	この項目を抹消
ISSN	金沢法学	この項目を抹消
ISSN	45/1,193-224	この項目を抹消
ISSN		この項目を抹消
ISSN		この項目を抹消

アイテムの資料種別を登録してください。複数の資料種別を登録する場合は、[Ctrl]キー。

### 3. プログラムの利用方法・画面例(2)



**金沢大学**  
KANAZAWA UNIVERSITY

金沢大学 教員総覧 研究業績検索 結果

検索方法を選択してください

氏名検索

所属別検索

研究分野別検索

研究業績検索

キーワード検索

検索語: ( 著書・論文名=中東戦争 ) データ件数 3件

NO	著書・論文名	出版社・掲載誌	研究者名
1.	第四次中東戦争(1973年)と米国・エジプト関係		鹿島 正裕
2.	中東戦争を巡る米国・エジプトの政策とその決定過程		鹿島 正裕
3.	中東戦争と米国 米国・エジプト関係史の文脈	御茶の水書房	鹿島 正裕

KURAへのリンク

ハンドル番号  
と業績IDを業績  
DBに戻す。

検索実施

絞り込み検索

1. 【キーワード欄】に検索したいキーワードを入力してください。

2. 【項目】のプルダウンメニューから検索対象を選択してください。

3. 【検索】ボタンをクリックしてください。

キーワード

項目  
--- 選択してください ---

検索 クリア

KURAの各論文の  
ページへ

**KURA**  
Kanazawa University Repository for Academic Resources

ポータル検索

検索

このアイテムを引用あるいはリンクする場合は次の識別子を使用してください  
<http://hdl.handle.net/2297/6250>

タイトル: 社会主義から民主主義・市場経済への移行: ハンガリーはなぜ成功したか

著者: 鹿島 正裕  
KASHIMA, Masahiro  
カシマ, マサヒロ

発行日: 2002-11月(Nov)

出版社(者): 金沢大学法学部

ISSN: 0451-324X  
金沢法学

巻: 45

号: 1

開始ページ: 193

終了ページ: 224

URI: <http://hdl.handle.net/2297/6250>

資料種別: Departmental Bulletin Paper

出現コレクション: [業績DBから返信](#)  
[金沢大学](#)

このアイテムのファイル:

ファイル	内容記述	サイズ	フォーマット
kashima200211.pdf		2794kb	Adobe PDF <a href="#">開く/ダウンロード</a>

アイテムの詳細コードを表示する

## 4. 現状とニーズの把握

2008年3月DRF－MLで簡易アンケート調査を実施

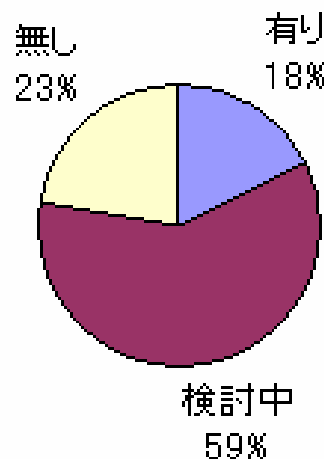
<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/kura/achievement/sub5.html>

### 【結果】

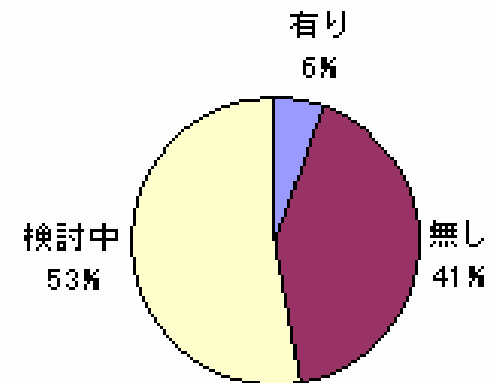
- 需要はある。
- 「運用状況，利用実績を知りたい」という要望...

→需要・要望に，応え切れていない。

業績DBとの連携の有無



ツールの使用予定



回答数 22



# 5. 課題と展望

## 1. システムに関する課題

→汎用的なプログラム作成の難しさ

## 2. 著者の同定に関する課題

## 3. システム以外の課題

→IRの根本に関する問題

＝自主的投稿実現の難しさ

# (課題1) 汎用性実現の難しさ

- どのDSpaceでも...という狙いだったが  
→ DSpaceのバージョンに依存
- 業績DBはさらに多様。しかも図書館以外が管理...  
→ システム改修の敷居が高い
- 開発のポイント = 他の学内システムに通じる課題  
→ 発生源入力, XMLによるデータのやり取り, 項目の  
共通化/全国標準化... = **学内システムの融合化**

## (課題2) 著者の同定をどうするか？

- システムの融合化=**コンテンツと著作者の同定機能**の実装が必要・・・科研費個人番号, 業績ID
  - **学内外の研究者情報システム**との連携を視野に入れる必要・・・KAKEN DB, ReaD, 各種ハーベスタ
- 以下の実現に向けて, 今後検討する必要あり。
- ① 著者の機関間異動後の同定
  - ② 同姓同名や改姓した研究者の同定
  - ③ JuNii+などのハーベスタ側での同定

# (課題3) 自主的投稿実現の難しさ

理由1: 業績DB自体の使いにくさ(学内的な問題)

理由2: IR登録のメリットをアピール仕切れていない

(現状) 紀要は即IRへ／IRでなくてもOA誌として読める／最終稿登録は嫌／登録許諾されていない...

→そういう中でどういうメリットを出せるのか？

(例) 詳細なアクセス・ログデータの提供, Critiral Massに達するのを待つ。それとも, 業績DBへの代行登録の方が喜ばれるか？

# まとめ：3つの目標

- 目標1：学内の業務システム融合化の枠組みを作る

(参考)大学業務システム融合化研究会報告書

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gen/gen4/yuugouka/report-get.html>

- 目標2：まずは、学内の業績DB登録の必須化
- 目標3：IR登録のメリットを目に見える形でアピール

ご清聴ありがとうございました。